

読売新聞 きょう（11月11日）のイチ押し

社会面 コロナワクチン集団接種 月内で終了の動き加速

新型コロナウイルスワクチンの集団接種について、各地の自治体で終了する動きが広がっています。接種率が上がり、接種希望者が少なくなってきたためです。今後は新たに接種するには、個別接種での対応となりそうですが、受け皿の確保が課題になっています。

- ★ 政府は希望者への接種完了について、11月末をめどとしてきました。各地の自治体はこれに合わせ、集団接種会場を設け、一日あたり数千人の接種を実施してきました。
- ★ 今月9日現在、2回接種を受けた割合は全人口の74%に達し、米国（57%）や英国（67%）を上回っています。集団接種会場のある月内にさらに接種者を増やそうと、各地の自治体は、早期接種を呼びかけたり、夜間接種会場を新設したりしています。

スポーツ面 CSファイナルステージ開幕

プロ野球のクライマックスシリーズ（CS）ファイナルステージが、セ・パ両リーグで始まりました。いずれも白熱した投手戦となり、セ・リーグはヤクルト、パ・リーグはオリックスのいずれもリーグ王者が完封で勝利を収め、アドバンテージの1勝を含めて2勝としました。先に4勝したチームが日本シリーズへの出場権を得られます。巨人、ロッテにとって不利なスタートとなりましたが、まだ始まったばかりです。きょうの第2戦で、巨人はエース・菅野、ロッテは美馬が登板します。残り5戦。「逆襲」に期待がかかります。

他紙と比べて

気象庁が「ラニーニャ現象が発生しているとみられる」と発表しました。冬にラニーニャ現象が起きると、日本の上空に寒気が流れ込みやすく、気温が平年より低くなる傾向にあり、日本海側では大雪になることがあるそうです。特別面（21面）の「防災ニッポン」で、大雪による緊急事態に備えた対策を紹介しています。